

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：海上交通	
日付：11月 3日（月）曜日、セッション時間： 15：00～17：00	
司会者名（所属）：今井昭夫（神戸大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体： 4 件の発表の内、2 件がクルーズ客船の将来展望に関する研究、残り 2 件が海上コンテナ輸送に関するものであった。クルーズ客船市場に関する研究は、日本では既往研究は少なく、その点これからの研究が重要であることが指摘された。一方、海上コンテナ輸送は、ある程度既往研究はあるが、モデルの精度向上のための課題があり、今後の研究推進の重要性が確認された。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(220)「我が国におけるクルーズ観光の実態分析」藤生慎(企画開発)</p> <p>日本人と欧米人での休暇に関する考え方が異なると思われるが、これらを同じ基準で比較することの是非を議論する必要がある。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(221)「階層分析法に基づくクルーズ客船寄港地の魅力度評価とランキングの試作」荒牧健(日本海洋コンサルタント)</p> <p>本研究はアンケートを行ったものであるが、クルーズ客に対するアンケートを実施する場合、船社の協力を得ることによってこの種の研究の難しさがある。今回の研究はクルーズのリピータ客を対象にしたもので、そのため寄港地の魅力度を重要と考えた。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(222)「品目別貨物フローに着目した国際海上コンテナ輸送市場モデルの構築」横尾俊宏(神戸大学大学院)</p> <p>品目別に船社の輸送料金が異なるとの仮定でモデル構築を行っているが、実際の海コン輸送では船社毎の運賃の差は多少あると考えられるが、一般には品目無差別運賃であり、仮定を再考する必要があるかもしれない。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(223)「荷主における国際海上コンテナ貨物の輸送ニーズに関する分析」秋田直也(神戸大学大学院)</p> <p>国際海上コンテナ輸送の荷主に対して、貨物の集荷機能強化に関する意向調査を実施した。この結果、輸送コストやリードタイムに関する関心が高いことが明らかになった。</p>